

九州風景街道のアンケート調査結果報告

出口近士(宮崎大学)



●調査目的

風景街道の活動は新しい取り組みであり、調査はまだ多くはありませんが以下のポイントから調査した結果を報告します。

- ①組織形態
- ②活動形態
- ③情報・広報活動
- ④財源

●調査対象ルート



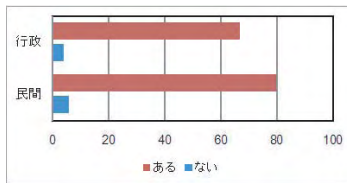
- ①女界灘風景街道
- ②ながさきサンセット・オーシャンロード
- ③北九州おもてなしの「ゆっくりかいどう」
- ④唐津街道むなかた
- ⑤九州横断の道 やまなみハイウェイ
- ⑥九州横断の道 阿蘇くまもと路
- ⑦日豊海岸シーニック・バイウェイ
- ⑧日南海岸きらめきライン
- ⑨かごしま風景街道

●調査方法

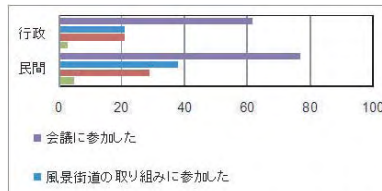
国土交通省の協力のもと、各ルートで活動されている行政(国・県・市町村)、民間の方々にアンケートを配布・郵送しました。そして379団体の内、163団体から回答を頂きました。厚くお礼を申し上げます。

●参加形態

風景街道活動への参加・参画の有無をお聞きした結果、まだ実際に参加したことのない団体も若干ありました。



また、参加した活動内容を伺うと、風景街道の取り組みと道守活動への参加数がほぼ等しいことから、九州では風景街道活動を、道守活動が先導していると推定されます。



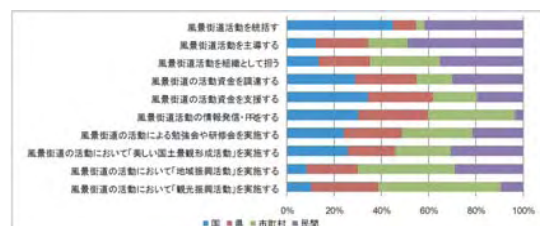
●組織が担っている役割(現況)

所属組織が担っている役割の内、計画策定については民間と行政の比率がほぼ等しく、両者のパートナーシップが形成されつつあることが推測されます。



●組織に担ってほしい役割

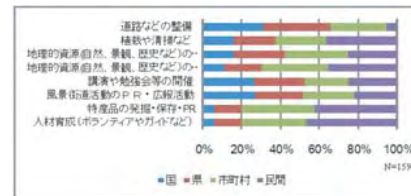
風景街道の活動は民間組織が主導し、地域や観光の振興、情報発信は県や市町村が担うのが望ましいという結果です。また資金については、各組織が概ね均等負担という期待が見られます。



●参加・参画してほしい活動

風景街道の活動毎に、参加・参画してほしい組織、団体を聞きました(複数回答)。

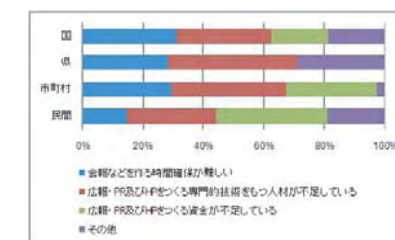
活動の主体は民間と市町村ですが、国・県への期待も多く、4者が概ね均等に役割分担して(パートナーシップの下に)活動することが望まれています。



●情報・広報活動

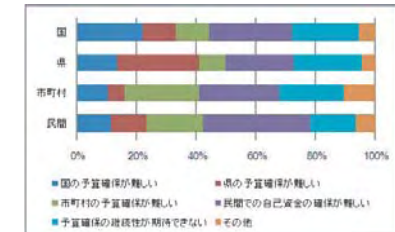
表は各団体の広報活動の内容(数)ですが、県では情報・広報活動が行われておらず、市町村と国の間において風景街道への取り組みを模索している状況が見えます。

項目	国	県	市町村	民間組織
情報収集	13	0	4	17
共有化	19	0	8	15
広報	20	0	6	13



●活動資金

どの組織も資金確保に苦慮しており、今後、資金調達のしくみづくりが大きな課題です。



●まとめ

これまで先導してきた「道守九州会議」の活動を礎にしながら、今後は、各ルートの風景街道活動の内容に応じた国・県・市町村、民間団体の役割の分担(パートナーシップ)や、ルートを連携させる戦略の立案と戦術の実施が課題となります。

九州横断の道 やまなみハイウェイ

草原景観の復活・保全、ゆっくり寄り道ツーリズムの創出、自然と観光の共生をテーマに活動をしています。

自然や町並みなどの景観には特に力を入れ、地域が元気になるような「見た目だけではない」取り組みを行っています。

ぜひ「ゆっくり寄り道」に訪れてください。



たかひら展望公園から太平洋を望む

日南海岸きらめきライン

「うつくし」「もてなし・いやし」「神話と歴史」という3つの活動テーマを掲げています。

訪れる人と迎える人の豊かな交流で、双方に魅力あふれる日南海岸を目指して活動しています。

青い海と、豊かな自然、そして歴史を楽しみに来ませんか。



長者原からくじゅう連山を望む

日豊海岸シーニック・バイウェイ

基本コンセプトは「住民自治の原点である「浦＝漁村集落」と海業をベースとした地域振興を目指す」です。

具体的には、地域資産の発掘、海の道のリフォーム、県境を越えた地域連携と情報発信を柱として活動しています。ぜひ日豊地域を訪れて、「浦」文化と地域の暖かさに触れてください。



道の駅フェニックス前から日南海岸を望む

がいどう

東九州風景街道宣言

吉武 哲信(宮崎大学)

- ①私達は、東九州の自然・歴史・文化や人情にふれあえるような風景街道の推進に努力します。
- ②私達は、みんなで力を合わせ、もてなしの心が表れるような東九州における風景街道の形成と運営に努力いたします。
- ③そして、私達は、国内外からの多くの人々が東九州の風景街道に訪れてくれることを願っています。



- 14:00 開会の挨拶
角 知憲(九州大学)
- 14:05 九州風景街道の動向
望月拓郎(国土交通省九州地方整備局)
- 14:35 九州風景街道のアンケート調査結果報告
出口近士(宮崎大学)
- 14:45 パネルディスカッション
—東九州の風景街道の取り組みとこれから—
・コーディネーター
榎木 武(道守九州会議代表世話人)
・パネリスト
久恒雄一郎(九州横断の道やまなみハイウェイ協議会)
古田 浅男(日豊海岸シーニック・バイウェイ)
谷越衣久子(日南海岸きらめきライン)
- 17:00 閉会
- 18:00 意見交換会

2008年3月1日(土)
ひまわり荘にて開催

九州風景街道の動向

望月拓郎(国土交通省九州地方整備局 道路計画第二課長)



アメリカのシーニック・バイウェイ(連邦指定126ルート)を参考にして、生まれた日本風景街道は、現在全国で93ルート、そのうち九州では9ルートが登録されており、九州風景街道推進会議と九州風景街道ルート代表者会議が両輪となり、推進しています。

●日本風景街道の意義

①美しい道路づくり・地域づくり

道路と沿道の一体的な景観形成や、地域資源の発掘や保存を行います。

②連なることによる魅力の増大

(スケールメリット)

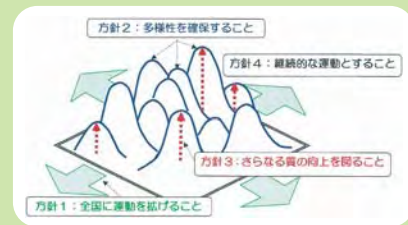
道路を軸とした連続性、一体性を促し、地域内の交流の活発化。また、観光客の周遊性の向上を目指します。

③「新たな公」民・学・官の協働へ

従来の「対話型」から「協働型」への転換を図ります。

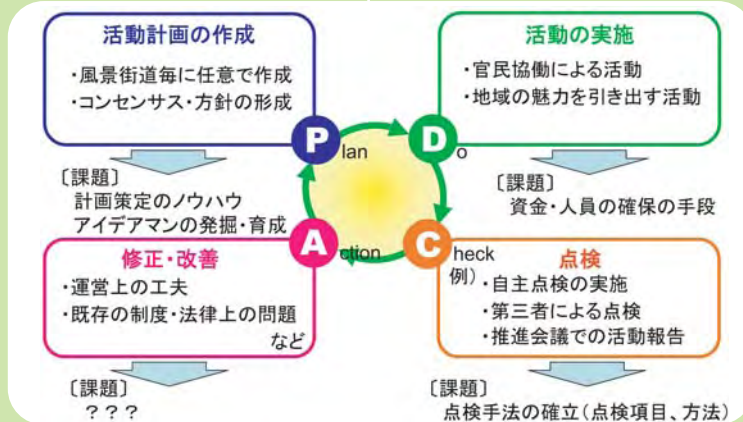
●日本風景街道の理念～運動方針～

- ①全国に運動を拡げること
- ②多様性を確保すること
- ③さらなる質の向上を図る
- ④継続的な運動とすること



●風景街道のマネジメント・サイクル

活動の継続性の確保、更なる質の向上を行うため、各風景街道毎に適切なマネジメントが必要であると考えます。



P・D・C・Aのマネジメントサイクル

図を見ていただくと分かりやすいと思いますが、まずPlan=活動の計画を作成します。次にDo=計画に沿った活動を行い、Check=点検で活動を見つめ直します。最後にAction=改善で問題点を次の活動に向け修正します。そしてその結果を次のプランに繋ぐことが大事なのではないでしょうか。

●風景街道=地域の活性化

簡単に概要を述べさせてもらいましたが、要はみんなで協働し道を基盤とした地域の活性化をしていきましょうということです。様々な立場の人たちが「自由な発想でいろいろと試みる」ということです。

●風景街道推進のポイント

風景街道推進活動を円滑で継続性のあるものにするには、次のポイントが大切であると考えています。

- ①いかに魅力を見つけ、アピールするか
- ②いかに多くの人を巻き込むか
- ③いかに「次のこと」に取り組もうとするか

その中でも1番の秘訣は、地域や行政、企業も含め、いかにみんなで「楽しく」やるか、ということに尽きるのではないのでしょうか。

パネルディスカッション

～東九州風景街道の取り組みとこれから～



樽木: コーディネーターを務めます樽木武です。

本日のディスカッションは、東九州風景街道の取り組みとこれからをテーマに進めていきます。風景街道として東九州軸で活躍されている3団体の代表者にパネラーとして参加していただいています。

●地域をどう協働させ、どう継続するか

樽木: ただ今、パネラーの方に3つのルートの概要や取り組みを紹介していただきました。

自然と観光の共生、浦文化、歴史を活かした取り組みと地域の特性を活かし「しっかりと取り組まれているな」という感想を持ちました。しかしいずれも高齢・少子化の問題を抱える側面も持っています。そんな中、課題もいくつか見えてきていると思いますが、多様な人々の集まりである地域を、いかに協働させていくか、また、それをどう継続していくか、といったお話をまず伺いたいと思います。

久恒: おっしゃられたように協働して活動し、尚かつそれを継続していくのは非常に難しいことです。

私たちは、まずお互いの役割分担を心得ることが大切と考えています。

谷越: 民間の多様なテーマをもった人をどう取り込むかということですね。「日南海岸きらめきライン」では、まず市町などのエリア毎に、協働体制・パートナーシップを組んでいただこうと考えています。

一つの課題を、みんなで協働し作り上げるプロセスを経て、協働が生まれ、それぞれの役割分担が自然と決まると思います。

古田: 私たちの場合「日豊海岸ツーリズムパワーアップ協議会」という組織がありますが、エリアが順次拡がっており、早め、そのためのシステムを確立するのは、大切だと考えているところです。



樽木 武 久恒雄一郎
道守九州会議代表世話人 九州横断の道 やまなみハイウェイ

ルートのストーリーが大切ではないかと考えています。

民間がストーリーを構築し、それを提案していく力をつける。それに行政が理解を示し、後押ししてくれる。

また、官民協働に関して、行政の方々は「予算がつくもの=必要」というような意識があるのか、そういった制約のない民間と同じテーブルで議論する場合、かみ合わないときがあります。

そこで風景というテーマから分科会をつくり、民間と行政が参加し情報を共有することでカバーしようと考えています。

樽木: 今のお話にあったように、民間と行政の価値観の差には、まだ隔たりがありますが、この両者が上手く動かないと風景街道の推進が難しくなります。地域の問題であり、住民が積極的に取り組むべきことですが、地方行政を担う人も大いに参加してもらいたい。それが「交流人口」を増やすことにつながると思います。

●交流人口を増やすために

谷越: 「日南海岸きらめきライン」で言えば、



古田 浅男 谷越衣久子
日豊海岸シーニックバイウェイ 日南海岸きらめきライン

●民間と行政の共通認識が大切

久恒: 「九州横断の道」は、従来から観光道路として確立されている道路といえますか、湯布院や黒川、阿蘇や別府といった全国的にも認知度が高い観光地をつなぐルートです。

そのため、すでに各地域ごとに大きな戦略を持って活動しているという状況があります。

プロジェクトを進めるには、そこを1つの大きなルートとしてまとめるより、少なくとも県単位で取り組んだ方が効果的ではないか、ということで、大分県と熊本県で分割したわけです。

私たちの大分県エリア内だけでも、地域ごとに多様なニーズがありますが、これを「やまなみ」として協働させていくには、

神話や歴史というテーマがあり、これで地域を繋げる事が出来る。さらには他のルートにも繋がる事が出来るテーマであると思います。

そのテーマをいかに味わってもらうか、楽しんでもらえるかが今後の課題です。例えば滞在型観光で地域をじっくり楽しんでもらい、そのことで地域も磨かれる相乗効果が生まれることを望んでいます。

久恒: 先ほども述べましたが、「やまなみハイウェイ」は全国ブランドとして確立している地域が多く、それぞれに観光資源を持っています。

今までのお客さんと主な観光資源である自然と温泉を大切にしながら、さらに「新しい魅力を加え、訪れるお客さんをどう

もてなすか」が私たちの今後の課題です。

古田: 日豊海岸地域はいままでどちらかと言えば日の当たらない面があったと思います。それは交通インフラを見ても明らかでしょう。

現在は地理的、交通の利便性から湯布院と観光パートナーとして、滞在型観光などでつないでいけないかと模索している段階です。

さらに、福岡などの企業等とも連携していけるような取り組みを行っています。

樽木: 観光地等を連携するネットワーク。これも1つの効果的な取り組みでしょう。あと忘れてはならないことは、「口コミ」の大事さではないでしょうか。

韓国からいらっしゃった方を対象としたアンケート結果を見てみると、「なぜここを選んだのか?」との質問に対する回答の大半が、友人・知人からの情報いわゆる「口コミ」なんです。

「パンフレットやTVを見て」と答えた方は意外と少ない。

つまり、訪れていただいた方に「いい体験」や「いい思い出」を作って帰っていただくことが集客につながるということです。

●まとめ

樽木: 最後に自分たちの「日本風景街道」として、1人でも多くの方が参加し、活動が広がることを期待しています。

最近は、観光客の傾向もかなり変わってきており、従来の大人数での観光から個人単位へ、少人数での観光になっています。さらに、歴史であったりショッピングであったり、温泉であったり自然であったりといった、実に多様で明確なニーズを持っています。

そのニーズに的確に、いかに質の高いものを提供できるかが成功の鍵となるのではないのでしょうか。

